

全国知事会会長記者会見概要

【日時】 平成 20 年 12 月 1 日(月) 14:30 ~ 14 : 40

【場所】 福岡県庁会見室

【件名】 道路特定財源一般財源化に伴う「地方への 1 兆円」について

(麻生全国知事会会長)

急に記者会見をお願いして恐縮です。これは全国知事会長としての記者会見です。

道路特定財源の一般財源化に当たりまして、1 兆円を地方の実情に応じて使用できる新たな枠組みを作るということが、追加経済対策（生活対策）の中で決定をされております。しかしこれが一向に実現されそうにないではないかということにつきまして、非常に強い危惧、あるいは不満を持っているところです。

この週末には、多くの新聞で、道路特定財源の一般財源化の問題につきましては、地方の生活道路などの整備を支援します「地方道路整備臨時交付金」（7 千億円）これを衣替えした上で、3 千億円を積み増してちょうど 1 兆円という新たな交付金を作るという方向での最終調整に入ったということが報じられております。

これはどこまでもいわば、道路を中心とした地方でのいろんな活性化対策、社会資本整備、こういうことに専ら使う交付金であるというふうに理解されます。これは 1 兆円ということで、数字が全く同じなもんだから、交付金という名前になっているから同じように見えるけれども中身は違う。

追加経済対策で決められたのは、地方が自由に使えるお金 1 兆円を、一般財源化にあたって確保するんである。これにつきましては、我々はこれは地方交付税として追加されるべきものであるという主張をし、また理解をいたしております。この点については、交付税だ、いや交付税ということではないかもしれないけれども、いずれにしても地方が自由に使えるお金であったはずなんです。

ところが昨日、一昨日の報道ではこの問題が消えてなくなってしまい、専ら道路及びこれに関連することを中心とした新しい交付金を 1 兆円作ると言っている。これでは追加経済対策で決定され、我々は強く求め、この前の 11 月 25 日の全国六団体の大会でも、交付税として別枠で 1 兆円確保してもらいたいということを強く主張・決定いたしておりますが、この点が忘れ去られてしまっておるのではないかとこのことをございます。

従いまして、いま論じられております、道路を中心とした地方の活性化あるいは社会資本整備を主たる目的とした交付金の 1 兆円とは別の 1 兆円、この実現を是非すべきであるということをお約束どおり、決定どおりやってもらいたいということを強く今日は訴えたいということでこの記者会見をしているわけでありませう。

以上です。

(記者)

幹事社からです。この実現するにあたって、今度の要請活動の予定、要請のために上京されたりする予定というのは。

(麻生全国知事会会長)

これは、先週もだいぶしてまいりました。今週、ちょっと私自身は、議会が始まりまして動きがとれなくなります。したがって、この記者会見もやっているんですけどね。

ただ、何人かの別の知事はこの線で動いております。実際の要請活動を続けております。

(記者)

それは、知事会として？

(麻生全国知事会会長)

はい。

ただ、ちょっと話が違いすぎているね。道路特定財源の一般財源化に伴ってということだったのに、一般財源化に伴って交付税なりを増やすという話と別だということになりつつありますからね。これは別になっては困るんで、やっぱり、決定どおりこれと一連のものとしてやっぱり、地方交付税なりの財源確保をやらしてもらわなきゃいかん。

これは、背景としましては、かねてですね、(歳入面では)交付税が5兆円も減らされています。そして我々の歳出は、ずっと社会保障費を中心に増えているということで、地方財政が非常に窮乏化している。そういう中で、是非我々は交付税の増額・復元をやらないといけないということで、活動してきています。この実現を図る上でも、今回の緊急経済対策に決められた一般財源化に当たって1兆円の自由に使える金を確保するという方針を我々は歓迎をしました。

ところが、どうもそういう方向になっていないという事でもありますので、是非この経済対策の決定された方向に従っての具体化を求めたいと思います。

(記者)

自党内にかなり、1兆円については異論も出ているようですが。まとまらないようですけれども。

(麻生全国知事会会長)

そうですね。それはこういう話ですから、すらっと我々の言う格好ではまとまらないという事が現実であろうと思います。しかしですね、もうあれは、政府・与党で決定した方針なんですからね。「道路特定財源の一般財源化に際し」ということなんだから、それでやらしてもらわなければいけないと思います。

自党派の中には、むしろ、まず道路をきちっと確保しなければいけないという意識が強いんだと思います。それはそれで我々も理解できます。しかし、一方で、地方の自由に使

えるお金をこの際、1兆円作ろうではないかというこの話はやっぱり実現してもらわないといけないですね。

(記者)

確認ですが、交付金の1兆3千億円と言われてますね。それと交付税を新しく別枠で1兆円、あわせて2兆3千億円を地方にくれという…。

(麻生全国知事会会長)

我々は、臨時交付金7千億円ですね、ああいうものは地方枠として確保してもらいたいということは一貫した主張なんですね。そこは確保しましょうというような話になってきているんですね。なっているんですが、それに3千億円を上乗せする、その3千億円も、どっから来るかという、我々に来ていたもの(注:まちづくり交付金等)を再計上するんじゃないかという心配もあるんだけど、それはそれとしましてね、1兆円というそういうものを入れた格好で、つまり、地方道路整備臨時交付金を入れた格好で数字が合うように1兆円と言っているけども、その中味は違う訳なんだから。片一方は、(用途を)拡げると言っていますが、道路を中心とした地方での社会資本投資、あるいは、もう少しソフトな使い方色々考慮していこうということになってはいますが、そういうことに明確に限定された交付金なんですね。

そうじゃなくて、交付税という一般的に使えるお金を、1兆円、この際確保しようというのは、性格が違っているんですね。だからこそ我々は別枠と言っているんです。その別枠の半分のほうがどこかに行っているようだ。

(記者)

総理のリーダーシップというものが、若干とれていないかなと思いますけど、その点については？

(麻生全国知事会会長)

その話は、今は専ら与党内調整の段階ですから、最終的にね、総理なりがどのような調整なり、決断されるかというのは残っていますけどもね。

是非ですね、経済対策で決められた線を実現してもらいたいと思いますね。

—以 上—